

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677000129
法人名	社会福祉法人 三峰会
事業所名	グループホーム回生園
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町菱田3063番地 (電話) 099-477-2585
自己評価作成日	令和4年10月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービス等があり、敷地内の一角にグループホーム回生園がある。法人内の利用者の交流は行事等を活用し行われています。また周囲を田畑に囲まれたのどかな環境の中にあります。建物は木造つくりで食堂や居間を中心に回廊式になっており各居室やトイレが見守りしやすいようになっています。利用者においては「公文学習」を取り入れ脳の活性化の一役を担っています。また利用者様一人ひとりが穏やかに安心して過ごせるようにケアプランに沿ったケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、そお街道に近く、周囲に中央運動公園や道の駅、ふれあいの里公園等を有した田園地に囲まれた中に立地しており、同法人の運営する介護老人福祉施設やデイサービス、居宅介護支援事業所等、同敷地内にあるため、研修会や災害訓練等、合同で実施することが多く、常に連携し合える関係にある。

現在、コロナ禍ではあるが、2か月毎の運営推進会議を書面だけで済ませず、感染状況に応じて、令和4年6月以降から対面による会議を開催し、会議参加者から、コロナ禍での面会方法や活動内容の報告、気付いた事等について率直な意見を出してもらい、話し合いを行い、サービスの向上に反映させている。

楽しみ事である食事に関しては、月に一度、選択メニューを取り入れ、好きなものを選ぶことができるほか、毎月の行事食を法人の管理栄養士監修の下で提供しており大変好評である。また、クリスマスケーキを利用者も参加して作るほか、敷地内にある桃の木から桃を収穫して「ジャムを作りたい」との利用者の要望を受け、皆でジャム作りを行う等、作る工程から食べるまでを体感しながら楽しく過ごしている。

管理者は日頃よりコミュニケーションを密に図ることで、職員の意見に耳を傾け、申し送り時や職員会議で自由に意見を出してもらい運営に反映させている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づき、利用者様が地域社会の一員としての自覚が持てるように全職員が協力し支援を行っています	「やさしく」「あたたかく」の文言を法人とホームの理念に盛り込み、法人全体の朝礼時に唱和することで意識付を図り、日々、思いやりのある支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事等に積極的に参加し地域の小学校の運動会見学や交流会を行い地域とのつながりを大切にしています	以前参加していた法人主催の夏祭りや地域住民も一緒になって実施していた防災訓練等は、現在コロナ禍のため中止となっている。隣接するデイサービスを利用する知人との交流は現在も継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	オレンジカフェ（回生園カフェ）をデイサービス事業所で行っています。（コロナ禍以前）介護や認知症の相談窓口として地域との交流の場となっています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の割合で開催しており、グループホームでの活動や利用者状況等の報告を行いサービス向上の意見交換を行っています	コロナ感染症拡大に伴い書面での会議が続いていたが、感染者数が減少した今年6月以降からは、役場や包括支援センター、民生委員等の参加による会議を開催し、事業所の活動内容や利用者状況の報告等を行うことができた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型という点で行政との関係は密にするように心がけており、情報の共有を行い協力関係を大切にしている	行政とは業務の際に生じる不明点等の相談に役場に出向いたり電話で問い合わせるほか、介護関係の書類の提出や運営推進会議で顔を合わせる等、日頃より意見交換を行い、事業所の実情を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束廃止委員会」が設置してあり月1回開催されている。グループホームにおいても内部研修を行い、常に身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を作り、毎月法人全体で身体拘束廃止委員会を開催するほか、年3回年間研修計画に組み込み、拘束や虐待に関する研修や検討を行っている。職員による行動制限を伴う言葉かけに気付いた時は、職員同士お互いに声を掛けたり職員会議で確認する等、注意喚起に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の全体研修やグループホーム内での研修において言葉使いや接遇の見直しを行い身体的、精神的言語的虐待が行われないように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修やグループホーム内での研修において利用者の権利擁護、成年後見制度等の勉強会を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書、運営規定の説明を行い家族および利用者の質問等に答えるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見相談苦情箱を玄関に設置し利用者や家族に意見を求めており第三者委員会も設置してある。家族面会時やカンファレンス、家族会を通して利用者およびグループホームのサービス向上を図るための情報交換を行いさらなるサービスの向上に努めている	利用者の意見は日常接する中で聞き取り、家族からは面会時に要望を尋ねている。また、毎月個別にお便りを作成し家族全員に送付するため、お便りに関する感想をもらう際にも意見や要望も伺っている。管理者はコロナ収束後は制限のない自由な面会や家族会の再開を願っている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム職員と代表者である園長、事務長、部長を交え月1回グループホーム会議を開催し月行事計画や利用者の情報を共有し意見の交換の場としています	職員の意見は業務の合間や休憩時間、職員会議で出してもらい、利用者に関することや業務改善に関する内容についてを話し合っている。日々の気付きや意見は業務連絡簿に記入して情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務については職員の希望休を月2回とし常勤職員は週40時間を厳守となっている。また残業のない職場、働き甲斐のある職場づくりを目指している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年2回の面接カードにおいて自己目標と実績・評価を行い自己研鑽に努めている。また各研修に積極的な参加を声掛けしサービスの資質の向上を目指している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会、大崎町認知症部会、キャラバンメイト連絡会に参加し情報交換を行いサービス向上を図っているがコロナ禍で現在は行っていない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談および入居前の契約に本人と家族に来園していただき、環境の確認と順応性の見極めをして頂き納得の上入居を決定してもらっている。また安心して過ごせるよう意見や要望を聞き入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連携は特に重要であることを全職員が認識しており入居間もない時期は多くの面会をして頂き安心感の構築と信頼関係が深められるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたってのモニタリングやカンファレンスを行い家族。ご本人の様々なニーズを導き出しご本人にあった無理のないサービス提供に努め初回のケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に合わせて掃除、洗濯物干しや洗濯物たたみ、台所仕事（テーブル拭き、食器洗い等）個々の能力にあわせ協力をもたらしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の中での生活を余儀なくされていることを考慮し職員と家族との信頼関係の構築や相互協力を行い安心安全に過ごせるように努めている。家族会、各行事等への参加の声掛けを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境の変化に伴う不安感や心身虚弱化を防止するためにも入居時に馴染みの家具や使い慣れた品を持ち込んでいただいている	初回アセスメントの際に利用者や家族から馴染みの人や場所を聞き取るほか、入居前のケアマネージャーや医療機関のソーシャルワーカーからも情報をもらい、これまで大切にしてきた馴染みの関係を把握している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場となっている食堂兼居間での席は人間関係の構築の場所として特に重んじ人権、尊厳等に配慮したくつろげる生活の場として位置づけし必要毎に対応している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去となった場合や特別養護老人ホームへ転居された方について定期的に様子伺いを行っている。またその他に葬儀等に参列している（コロナ禍以前）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者はケアプランを作成するにあたりご本人の意向や訴えを傾聴し家族の要望や意見等を踏まえ「その人らしい生活」のプランを立てようと日々努力している。	意思疎通の難しい方からは表情や仕草等から思いを把握するため、これまでの趣味や楽しみ事を詳しく聞き取り、情報収集している。それらを踏まえ、日頃から意識して接するようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人の人生の背景、生活歴を考慮しその人それぞれにあったケアサービスの計画と実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子をケアプランに沿った記録として行い、ご本人の行動や言動、状態をわかりやすい表現で記入している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の現状把握を行い家族との連携を密に取りながらご本人の意向を重点に置き職員からの情報を得ながら入居者が安心安全に過ごせるサービス計画の作成に努めている。	本人や家族の意向を基に毎月のカンファレンスやモニタリングのほか、主治医に照会文書にて意見をもらいケアプランに反映させている。ケアプランを実践できるように職員は出勤すると必ずケアプラン内容を確認して意識付を図った上で支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録において生活の様子に1日の生活状況を時間毎に記入。気づきや特記事項の場合には特に連絡簿に記入するようになっており職員が毎日閲覧することにより個々の様子の変化に気づき、ケアプランに反映させる体制をとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に職員の担当を決めきめ細かなお世話ができるように努めている。また利用者の心身および身体状況に合わせ柔軟に対応するように全職員が心がけている。利用者5名の方がコーヒーを希望され個人負担で飲食されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のほとんどが地域出身の方で地域に馴染んだ環境を活用し安心安全に過ごせるように努めている。防災避難訓練では年2回特養と合同で消防署、地区消防団等が行っている。(コロナ禍以前)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認を行い、かかりつけ医との連携は十分に行い緊急および急変時の対応としている。受診時は必ず職員が付き添いを行い必要時は家族に報告している。	入居前のかかりつけ医や受診の経過を把握し、入居後も利用者、家族の希望する医療機関を受診できるようにしている。日常において隣接する施設の看護師と連携して病状や体調不良時の対応にあたっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理上の看護体制は特養の看護師と連携し24時間体制をとっている。常時適切な医療の支援が受けられるように連携を十分に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時のサマリー等の情報提供を受け医療機関との連携を図っている。入院中も随時電話等で様子を伺い関係機関との情報交換を行っている。また退院を想定した支援にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取りの説明を行い家族、ご本人の意向に沿えるように努めている。状態の変化が生じた場合は医師、家族と相談の上対応している。	「ターミナルケアマニュアル」を備え、重度化や看取りに関する研修会を計画的に実施している。入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」と「看取り介護の指針」を説明し同意を得るほか、重度化に伴い「看取り意思確認書」を説明し、関係者全員による話し合いの下で希望する支援に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間帯はオンコール体制で特養の看護師が対応している。また法人内で年1回消防署による救急救命の講習会があり受講し緊急時に備えられるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人合同で年2回の避難訓練を実施し参加している。</p>	<p>同敷地内に隣接する事業所と合同で夜間想定を含む火災訓練を年2回実施している。備蓄に関しては、飲料水や災害用の食料をホーム内で保管するほか、法人本部にも必要量を備蓄しており安心である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で「権利擁護」、「人権・苦情相談」等の勉強会を行い「お客様満足度100%」を目指している。利用者への声掛けや直接的処遇に気を付けて利用者の接遇向上に努めている。	人権と権利擁護に関する研修会を実施し、耳元でさり気なく声をかけてトイレ誘導を行ったり、普段ポータブルトイレを使わない時は布を被せておく等、日常的に羞恥心に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が共同生活を強いられていることを鑑み、必要に応じてご本人の希望を傾聴して希望が叶うように援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に合わせるのではなく常に「利用者中心のケア」の実践に心がけ利用者の生活リズムに職員が合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の個性や尊厳を重視しお化粧の継続、理美容の利用を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的な嗜好調査や行事食、選択メニューを取り入れ好みを考慮した献立となっている。また、職員と利用者が一緒にできるだけ調理やかたづけ等に関わるようにしている。	献立は法人の管理栄養士が立てており、利用者も食器洗いやテーブル拭き、季節によりつわむき等の手伝いをもらいながら一緒に食事の準備をしている。月1回選択メニューを取り入れ、食べたいものを選んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は医師からの情報や指示に従い特養の管理栄養士と協働で行っている。グループホームでは水分、食事摂取量のチェックを行い把握している。定期的な体重測定		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがい、義歯の洗浄を声掛けし必要に応じ洗面台への誘導を行っている。また、歯科医の定期的な往診を受け、口腔衛生等の指導を下に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便、排尿チェックを行い個々の排泄パターンを把握し定期的にまたは随時声掛け、誘導を行い支援している。	排泄チェック表を参考にトイレのタイミングを見計らってトイレ誘導することにより、なるべく排泄補助用品に頼らず、トイレで排泄できるよう支援している。また、夜間については容量の多いパットを使用することで安心して休んでもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方はかかりつけ医と連携し下剤を処方してもらい服用していただいている。排便チェックを記録し排泄パターンの把握を行っている。食物繊維を多くとれる食事の献立やラジオ体操や歩く運動等に参加していただき身体を動かす機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は曜日関係なしに週2～3回行っている。希望される方にも対応している。入浴は午後から行っている	入浴剤を使用したり、冬至にゆず湯を提供する等、楽しく入浴できるよう工夫している。入浴をためらう時は、タイミングを見計らって再度声をかけたり、翌日に入浴してもらう等している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事等への参加は健康状態とご本人の意思に基づき行っている。また昼寝等は本人主体でされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は翌日の1日分を個別ケースに配分し、食前、食後服薬の介助を行っている。また処方薬の変更時は連絡簿やミーティングで確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせた役割として洗濯物干しや、洗濯物たたみ、掃除、食器洗い等を行っていただいている。また新聞紙でゴミ箱を折って下さっている。カラオケに参加したり季節の花等の塗り絵をしたりされている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得、外出、外食等が行われていた。ドライブや、地域行事への参加等積極的に支援を行い気分転換を図っていたがコロナ禍で出来ない部分がある。	コロナ感染症拡大により外出や外食に自由に出かけられなくなったが、室内ばかりではストレスが生じる恐れがあるため、コスモス見物にドライブに出かけたり、ホームの害虫駆除の際にも花見ドライブに出かけ、写真を撮ったり、ホーム敷地内の東屋で昼食を食べる等、工夫して気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金を所持している利用者は1名である。必要時はいつでも個々の預かり金から引き出しができるようにしている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	現在は携帯電話を所持している方が1名である。利用者が家族や知人との連絡等を希望されるときは随時対応するようにしている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者が落ち着けるような雰囲気や環境づくりを心がけている。生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごせるように心がけている	台所と畳スペースを中央に配置した回廊型の造りになっており、畳スペースでは疲れたら休めるよう簡易ベッドが置かれている。また、フロア天井は高く、明り取りの窓があるため、大変明るく、壁に季節の作品も飾られており、和やかな印象を受ける。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ホールや廊下にソファが設置してあり思い思いの場所で利用者同士で会話できる環境がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は個人の馴染みの家具や椅子が置いてある。家族からの誕生日祝い等のお花を置いている。</p>	<p>ベッドとエアコン、押し入れ、洗面台が備え付けられている。居心地よく過ごしてもらえるよう、これまで自宅で使っていた馴染みの品を持ち込んでもらえるよう利用者、家族にもお願いしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内環境としては居間兼食堂を中心に広々としておりホーム内が見守りしやすいつくりになっている。また南テラスからスロープを通り非常時の避難経路になっている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない